

【 国語 古典 2 学年 】

授業者 佐賀県立唐津青翔高等学校 教諭 矢次 恭実

◇単元名

漢文 漢詩 叙情と思索 『送友人』李白 (大修館書店「新編古典 改訂版」)

◇単元の目標

- ・漢詩の表現の巧みさや描かれた心情について、イメージをもちながら理解し味わう。
- ・繰り返し音読し、漢文訓読のリズムに親しむ。

◇本時の目標

- ・語句の意味を的確に理解し、詩の世界のイメージをもつ。
- ・友人との別れを惜しむ心情を理解し味わう。

◇配慮や工夫

本時の学習は、漢詩に書かれている語句をその情景と心情を思い浮かべながら的確に理解することをねらっている。そして、理解したことを音読に表す活動を通して、漢詩のリズムのよさに触れさせていきたいと考える。

そこで、本時の学習において次のような配慮や工夫を行っていく。

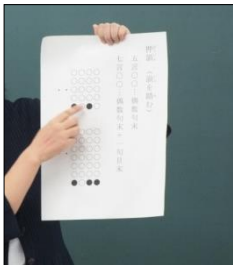
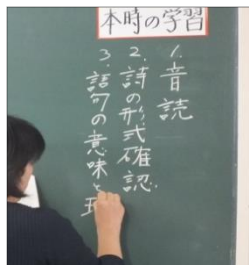
導入では、見通しをもたせるために、前時に学習した内容を提示して内容を振り返らせ、本時の学習につながるようにする。また、本時の学習の流れを示しておくことで、授業の途中でも確認できるようにしておく。





展開では、字間、行間を広く取って見やすくしたワークシートを用いたり、読みにくい箇所にはふりがなを付けたりすることで読むことへの抵抗を和らげる。また、適宜写真などを提示して、本文中の言葉についての説明を分かりやすくする。鑑賞の場面でも、イメージをもつことが苦手な生徒のために、写真などの視覚的な手掛かりを用いて、自分が感じた言葉で表現できるよう促していく。ワークシートを工夫し、書く負担を減らすことで、聞くことやイメージすることに集中できるようにする。また、全体で発表することへの抵抗を和らげるために、まず、ワークシートに自分の考えを書かせた後、グループでの話し合い活動を行い、それを基に全体への発表につなげるようにする。

まとめでは、学習内容を振り返らせるために、学習内容や音読で気を付ける箇所について、板書等を用いて視覚的に確認しながらゆっくり範読する。そして、個人のまとめの音読につなげるようにする。

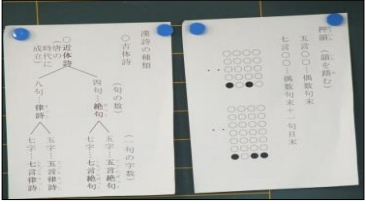
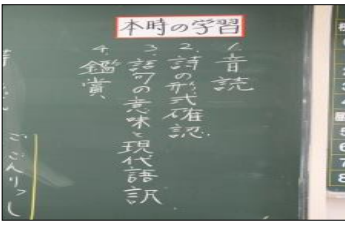
次の「本時の学習活動と具体的な学習環境」の「具体的な学習環境等」にある**学習環境Ⅰ～学習環境Ⅳ**とは、授業者が工夫をして取り入れたり、生徒アンケート等で効果が表れていたと捉えたりしている学習環境です。具体的な内容については、後の「取り入れた学習環境の実際と生徒の様子」で詳しく説明しています。また、各**学習環境Ⅰ～学習環境Ⅳ**の下にある〈 〉内の言葉は、生徒が抱える苦手さの領域を示しています。

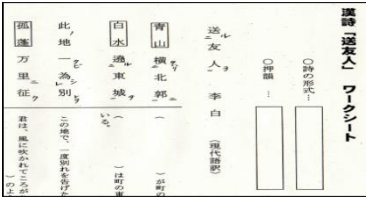
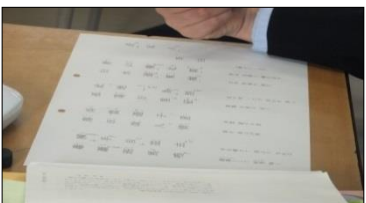
◇本時の学習活動と具体的な学習環境



過程	学習活動	具体的な学習環境等
導入	1 前時までの学習を振り返る。 (漢詩の形式、漢詩のテーマ)	<ul style="list-style-type: none"> ・漢詩の形式を表にまとめたものや漢詩の特徴をまとめたものを提示し、前時の学習を振り返る。 【学習環境Ⅰ】 ・授業の見通しがもてるように、本時の流れを板書する。 【学習環境Ⅰ】
	2 本時の流れを知る。	 

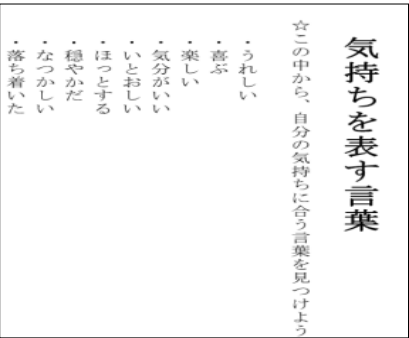
展 開	<p>3 詩を音読する。</p> <p>(1) 範読 (2) 追従読み (3) 個別の読み</p> <p>4 詩の形式を確認する。</p> <p>5 語句の意味の確認と現代語訳をする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>「青山」「白水」「孤蓬」 「遊子」「故人」「自」 「班馬」</p> </div> <p>6 五、六句目「浮雲」に例えられる旅人の気持ちや、「落日」に例えられる作者の気持ちについて考える。[鑑賞]</p> <p>(1) 八句目「蕭蕭班馬鳴」は、どのような効果を上げていくかについて、自分の考えを書く。</p> <p>(2) 自分の考えをグループで話す。</p> <p>(3) 全体発表をする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートでは、大きめの文字を用い、字間を広くして文章を書いておく。 【学習環境Ⅱ】 ・ゆっくりと範読や追従読みをし、文章を目や指で追いながら読むように言葉を掛ける。 ・読みにくい箇所には、ふりがなを付けるよう言葉を掛ける。  <ul style="list-style-type: none"> ・五言律詩であることと押韻を確認する。 ・穴埋め式のワークシートを用いて、板書の語句を空欄に記入させるようにする。 【学習環境Ⅱ】 <ul style="list-style-type: none"> ・一、二句目の「青山」「白水」の様子を表す、山や輝く川の写真を提示する。 ・四句目「孤蓬」の様子を表す写真を提示する。 【学習環境Ⅲ】 ・分かりやすいように、ゆっくりと語句の意味を説明する。 ・見やすいチョークの色で板書する。  <ul style="list-style-type: none"> ・読みにくい漢字には、ふりがなを付けるよう促す。 ・旅人や作者の気持ちを想像しやすいように、「浮かぶ雲」、「夕日」の写真を提示し、その写真からイメージする言葉を発表させるようにする。 【学習環境Ⅲ】 ・自分が感じたイメージを言葉に表すことが苦手な生徒には、「気持ちを表す言葉」の表を渡し、自分のイメージに合う言葉を選択するよう促す。 【学習環境Ⅳ】 ・ワークシートに、自分の考えを書く時間を設ける。 ・全体での発表の抵抗を和らげるために、まず、グループでの話し合い活動を行う。 
ま と め	<p>7 本時の学習を振り返る。</p> <p>(1) 情景を思い浮かべ、範読を聞く。</p> <p>(2) 情景を思い浮かべ、音読する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートや板書を基に、音読するときに気を付けるところや感情を込めるところなどを確認し、本文をゆっくりと範読する。 ・ワークシートを基に、学習したことを振り返って音読活動を行う。 

◇取り入れた学習環境の実際と生徒の様子

<p>学習環境Ⅰ 〈聞くこと〉</p>	<p>導入では、前時に学習した漢詩のきまりをまとめたものを提示して振り返りを行う。また、本時の学習の流れを、板書する。</p>
<p>取り入れた 意図</p>	<p>口頭による説明だけでは聞き漏らしてしまう生徒にとって、前時の学習内容を視覚的に提示することで、学習した内容を思い起こして本時の学習内容につながりやすくなるようにする。また、本時の学習の流れを提示し、生徒が安心して授業に取り組めるようにする。</p>
<p>[前時の学習内容を提示する]</p> 	<p>生徒の取組の様子</p> <p>生徒は、前時の学習内容の説明があっている間、提示した図に注視して話を聞いていた。普段、自分のノートで振り返るときには、見る箇所を質問する生徒がいるが、本時の授業ではそのような生徒はいなかった。</p>
<p>[本時の学習の流れを板書する]</p> 	<p>生徒の取組の様子</p> <p>生徒は、落ち着いた様子で、板書に注目していた。授業の途中で、学習の流れについて質問をする生徒はいなかった。普段、「どこまで学習すれば終わりなのか」と質問する生徒がいるが、本時の授業では、そのようなことはなく、最後まで学習に取り組んでいた。</p>
<p>[学習環境の考察]</p> <p>言葉を聞くだけでは、正しく説明を聞くことが苦手な生徒は、説明の内容を絵や図に表したり、板書に文字を残したりするなどの視覚支援を行うことで、説明の内容を理解し、学習の見通しをもちやすくなったと考える。</p>	

<p>学習環境Ⅱ 〈書くこと〉</p>	<p>ワークシートを板書と同じ形式にし、学習のポイントとなる語句を書き込む形のワークシートを用いる。また、ワークシートの文章の文字を大きめにし、字間を広くする。</p>
<p>取り入れた 意図</p>	<p>書くことに時間が掛かってしまう生徒にとって、語句を書き込む形式のワークシートにすることで、書く時間が短くなり、生徒が「聞くこと」や「考えること」に集中しやすくなると思われる。また、文字の大きさや字間の広さを工夫することで、漢文を読みやすくする。</p>
<p>[書き込む形式のワークシート]</p> 	<p>生徒の取組の様子</p> <p>ポイントとなる部分が穴埋めになっているので、書き込む場所が分かり、自分から書き込んでいた。また、書き写す時間が短くて済み、普段、文字を書くことを苦手としている生徒も早く書き上げ、顔がよく上がっていた。</p>
<p>[字間を広くしたワークシート]</p> 	<p>生徒の取組の様子</p> <p>教科書の本文よりも、ワークシートの方が文字が大きく、字間が広がったので、取り組みやすいと感じたのか、早速自分で読み始めた生徒がいた。生徒は、ワークシートに注目して、読むことに集中できていた。また、漢文に苦手意識をもっていた生徒は、読む順番を表す印をワークシートに書き込んでいた。</p>
<p>[学習環境の考察]</p> <p>書き写すことに時間が掛かる生徒も、ワークシートを板書と同じ形式にしたり、語句を書き込む形式にしたりしたことで、書く量が減って話を聞くことや考えることに集中することができたようだ。また、文章を読むことに苦手さをもつ生徒は、提示する文章を工夫したことで、読みやすさにつながったと考える。</p>	

学習環境Ⅲ 〈読むこと〉	文章中の語句の意味を理解させたり、語句からその情景のイメージをもたせたりする際に、写真など具体的な図を提示する。	
取り入れた意図	説明を聞いたり、言葉を読んだりするだけでイメージすることが苦手な生徒にとって、写真などの視覚的な手掛かりを提示することで、言葉についての説明を分かりやすくしたり、自分が感じた言葉で表現したりできるようにする。	
〔語句に関する写真を提示する〕 	生徒の取組の様子 電子黒板で写真を提示すると、顔がよく上がり、全体が集中した雰囲気になった。生徒は、写真を見て、自分の知っているものと重ねたり、比べたりしながら、発言していた。「孤蓬」の写真のときには、生徒が知っている蓬（よもぎ）との違いが大きかったので、積極的に質問をしていた。	
〔詩の情景が分かる写真を提示する〕 	生徒の取組の様子 電子黒板に提示された写真に、生徒は集中して見ていた。言葉だけでは、イメージをもつことが苦手な生徒も、雄大な山や川、夕日の写真を見たことで、「ゆったりする」「きれい」などの感想を発言した。	
〔学習環境の考察〕 言葉を読むだけでは、イメージをもつことが苦手な生徒も、写真などの視覚的な手掛かりがあると、言葉だけで伝えた場合よりも、語句の意味や表わされている情景がどのようなものか分かりやすかったようだ。また、本文の内容と合った写真の提示をしたことで、生徒の興味を喚起し、理解を促すことにつながったと考える。		

学習環境Ⅳ 〈話すこと〉	作者や登場人物の気持ちを想像する際に、「気持ちを表す言葉」をいくつか提示したプリントを用意する。	
取り入れた意図	自分の言葉で表現することが苦手な生徒にとって、気持ちを表す言葉の選択肢を与えることで、自分が感じた気持ちを表現しやすくなるようにする。	
〔「気持ちを表す言葉」を選択できるプリントを用意する〕 	生徒の取組の様子 気持ちを表す言葉が思い浮かばずに活動が進んでいない生徒に対して、「気持ちを表す言葉」のプリントを活用するように言葉を掛けた。15人中、4～5人の生徒が、自分から取りに来て活用した。選択肢の中から選んだ言葉を基に、ワークシートに自分の考えを書いていた。	
〔学習環境の考察〕 自分の言葉で表現することが苦手な生徒は、頭の中では大体のイメージをもっているが、言葉として表わすことに戸惑っていると思われる。言葉の選択肢を与えたことで、書こうとする内容のイメージを明確にすることができ、自分の考えを表現しやすくなったと考える。		